留学生チューターの基本的な知識・スキル取得と情報共有を促すｅラーニング教材の設計

Designing e-Learning Materials to Promote Basic Knowledge and Skill Acquisition and Information Sharing for International Student Tutors

平山　祐*　久保田　真一郎*　マジュンダール・リトジット*　合田　美子*
Yu Hirayama*　Shin-Ichiro Kubota*　Rwitajit Majumdar*　Yoshiko Goda*

*熊本大学大学院教授システム学専攻
*Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞　日本の大学では，外国人留学生を日本人学生が生活面及び学習面で支援するチューター制度というものがあるが，チューターを担う日本人学生(以下，留学生チューター)を適切に指導することや留学生チューター同士の情報共有が課題としてある．そこで，動機づけや学習意欲を高める ARCS モデルをベースに初心者留学生チューターが問題なく支援を行うための基本知識・スキルを学び，情報共有ができるｅラーニング教材を設計した．
＜キーワード＞　学習意欲を高める ARCS モデル，留学生チューター, ｅラーニング

1.　はじめに

日本の大学では，外国人留学生を日本人学生が生活面及び学習面で支援するチューター制度というものが存在し，単なる留学生の支援という側面だけではなく，日本人学生が異文化理解などを向上させるという面がある．副田(2010)は，過去の先行研究から日本人学生はチューター活動を通して得るものとして，異文化コミュニケーション技術の習得，外国及び自国文化の理解，言語に対する関心の向上などがあると述べている．一方で，岡・坂野(2016)は日本人学生のチュータリングの課題として，「多様な内容のチュータリングの実施」や「チューターの資質向上」を，猪又・西村（2022）は，「他のチューターがどのような活動をしているかわからない」という課題があったとの報告をしている．また，留学生チューターの養成にｅラーニングを活用している報告はない．

そこで，本研究では，初めて留学生チューターを行う日本人学生が必要な知識やスキルを身につけるだけでなく、情報共有をすることができるｅラーニング教材を設計した．

2.　コンテンツの検討

留学生チューターといっても，支援対象となる留学生はさまざまである．例えば，大学に正規に入学し，数年間在籍する学生(以下，正規生)や，交換留学で半年から１年の短期間在籍する学生(以下，非正規生)がいる．

その学生の属性により，支援内容が若干異なるため，今回はより支援内容が限定される非正規生を支援する際の知識やスキルを特定し，コンテンツを検討することとした．

特定にあたっては，まず，所属大学が発行している留学生チューター向けの手引きを元に，支援内容チェックリストを作成した．次にそのチェックリストを元に，５人の留学生チューター経験者に聞き取りを行い，追記・修正した．そして，そのチェックリストの行動が実施できるようになるための学習目標を検討し，最終的に表１のコンテンツとした．

表１　ｅラーニング教材のコンテンツ

回	コンテンツ
1	留学生チューターとは
2	異文化コミュニケーションの基本を学ぼう
3	外国人留学生の国・文化を知ろう
4	英語のメールで連絡を取ろう
5	渡日直後のサポートをしよう
6	やさしい日本語でコミュニケーションを取ろう
7	実践報告
8	振り返り

3.　ARCS モデルと設計

具体的な設計は,動機づけや意欲を高める手法をモデル化した ARCS モデル(Keller 2010)を用いた．

表２　ARCS モデルとその適用

分類	下位分類	コンテンツに盛り込んだ内容
Attention（注意）	A-1 知覚的喚起	冒頭に，留学生チューターをする上で役に立つことが学べる，同様の活動を行う仲間が作れるといったことがわかるような説明を述べる．
	A-2 探究心の喚起	各回の冒頭に，留学生チューターをしていたら起こりうる具体的な状況を提示し，今回な学ぶ内容がその状況を解決する上で役に立つという導入を行う．
	A-3 変化生	全体の目次と各章の所要時間を示す．また，各回の構成は，テキストを読むだけでなく，確認テストやディスカッション投稿を盛り込み変化性を持たせる．
Relevance（関連性）	R-1 親しみやすさ	日本人学生も困ったことがあるかもしれない事例を用いる．例えば携帯の契約や住民異動の手続き等．
	R-2 目的指向性	教材を終えたら何が身に付くか学習目標を明示する．
	R-3 動機との一致	学ぶ内容が直近の活動で役に立つだけでなく，長期的な視点でも役に立つことを具体的に強調する．
Confidence（自身）	C-1 学習要求	各回に学習目標を明示する．(R-2 と同じ)
	C-2 成功の機会	各回に確認テストを設け，小さい成功を積み重ねることができるようにする．
	C-3 コントロールの個人化	各回の確認テストは何度でも受講可能とし，いつ終わるとするかは自分で決めさせる．
Satisfaction（満足感）	S-1 自然な結果	学習者同士が対面で集まって，自分が培った経験やノウハウを人に教える機会を設ける．
	S-2 肯定的な結果	学習を終えた日本人学生にデジタルバッジを付与する．
	S-3 公平さ	各回の確認テストは習った内容で解けるようにする．

留学生チューターは希望制で担うことが多く，元々の意欲が高いことが多いが，一部の大学では担い手が不足している現状もあり，意欲が高くない学生もいることが想定される．

そこで，留学生チューターとしての役割に意欲的でない日本人学生の動機づけや意欲を高めるようにしたいと考え，本モデルを適用することとした．

ARCS モデルには，４つの分類と 12 の下位分類がある．表２に示すとおり，各分類の要素を e ラーニングコンテンツに盛り込み，設計を行った．また，これには，留学生チューター同士のやりとりも含まれており，情報共有を促す設計にもなっている．

4. 今後の研究計画

本研究では，ARCS モデルを用いて初心者留学生チューター向け e ラーニング教材の設計を行った．今後は，まず内容領域専門家レビュー及びインストラクショナルデザイン専門家レビューを実施し,その後，形成的評価を実施する．そして，形成的評価実施後，必要に応じて，教材を改善し，2024 年 10 月から非正規生に対して留学生チューターとして活動を行う日本人学生向けに本教材を提供し，その効果を測定する予定である．

参考文献

副田恵理子(2010)，チューター活動における日本人学生の学び:日本人チューターと留学生のインターアクションの分析から，藤女子大学紀要，巻 47, pp.87-102

猪又由華里，西村政子(2022)，留学生チューター制度の現状と課題，Journal of Inclusive Education, Vol.11, 131-140

Keller, J. M. (2010) 鈴木克明（監訳）学習意欲をデザインする-ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン-，北大路書房

宇塚万理子・岡益巳(2016)，ボランティアによるチュータリングの現状と課題:留学生に対するアンケート調査結果を踏まえて，岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要，第１号, pp.133-152